

准教授 松實 輝彦

職務上の実績に関する事項	年 月 日	概 要
小学校の研修会における講師活動	2016. 11. 20	北名古屋市長師勝北小学校より依頼を受け、同校の教職員を対象に、「自己有用感を高める図工の指導」をテーマとする講演を行った。

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
◎著書 大正期アジアにおける新聞広告の視覚文化論—日本製品が約束する幸福のかたち—	共著	2017. 3	大正イマジユリイ学会国際シンポジウム報告書編集委員会（大正イマジユリイ学会）	大正イマジユリイ学会が主催し、3カ年にわたって取り組んだ「大正期東アジアにおける新聞広告の視覚文化論」シンポジウムの研究成果をまとめた論集である。海外研究者8名（中国・香港大学、台湾・国立政治大学、韓国・延世大学、他）日本の研究者8名の論考を収録し、上記の研究課題を視覚文化の学際的な観点から多面的に、より深く討議した内容を反映させたものである。筆者は国内論文（関連研究）として、「日本の初期広告写真を概観する—小川一真から杉浦非水に至る美人広告写真の系譜—」の項目を担当した。わが国における広告写真の黎明を明治中期の浅草十二階での美人写真コンクールにもとめ、写真師・小川一真の芸妓写真から図案家・杉浦非水による三越百貨店のポスターに使用された美人写真へと至る展開を論じた。このシンポジウムの開催および論集の刊行には、サントリー文化財団の「人文科学、社会科学に関する学際的グループ研究助成」を受けた。（pp. 295-308）
◎学術論文 嶋本昭三の芸術教育活動について—アール・ブリュットの観点からのアプローチ—	単著	2017. 3	『美術教育学研究』第49号（大学美術教育学会）	世界的に著名な芸術家・嶋本昭三の活動から、教育者としての姿に注目し、その芸術教育活動に顕著な「アール・ブリュット」への関心に焦点を合わせ、学術的アプローチを試みた。嶋本の教育活動の指導者である曾根靖雅との関係を検討したのち、嶋本が関わったアール・ブリュットの表現者である詩人の友

<p>貼り絵製作へのまなざし —小学校図画工作科の事例 研究—</p>	<p>単著</p>	<p>2017. 3</p>	<p>『名古屋芸術大学研究紀要』 第38号（名古屋芸術大学）</p>	<p>原康博と、さをり織り作家の藤山晃代について各々の創作活動を振り返った。彼らの活動を通して、嶋本が自身の制作活動と併行しながら実践した芸術教育活動の意義を明らかにした。(pp. 377-384)</p> <p>貼り絵は現在も多くの教育現場で、盛んに取り組まれている教材のひとつである。また教育現場を離れると、その対象は児童だけではなく、高齢者や障害を持つ人々へと広がっていく。ここでは日本の教育史における貼り絵について概観したうえで、本学における図画工作科指導法の授業で実施した貼り絵製作指導についての事例を基に考察した。その結果、貼り絵が現在でも十分に有用性の高い教材であることが、演習を通じた事例研究においても明確に示された。(pp. 269-280)</p>
---	-----------	----------------	--	--